環境と経済を両立させたドイツ国を裏切り悪質極まるVW事件

財団法人 地球・人間環境フォーラム専務理事 平野 喬

ドイツの国民車、フォルクスワーゲン（VW）の排ガス不正問題は、その手口の意外性、危機に対する未熟運転、利潤第一主義の破たん、成功者の傲慢、ナチス・ドイツの歴史、そしてドイツ経済だけでなく世界経済に与える悪影響と、あまりにも多くの話題を含んでいたため、連日、メディアで取り上げられることになってしまいました。

ヨーロッパでは新車の半分はディーゼル車と言われ、燃費が良く、地球温暖化の原因になる二酸化炭素（CO_2）の排出量も少ないことから、グリーンディーゼルなどと呼ばれて、VWは一番売れる車の座を確保してきました。しかし、排ガス規制の厳しい米国では、日本車などに押されてなかなか売上が伸びなかったそうです。

経済専門誌もVWの環境軽視を追及

ディーゼル車の排ガスが基準をパスしているように見せかける偽装工作はそんな米国で発覚しました。米国に本部を置く国際運輸環境委員会（ICCT）というNGOが、VW車が実際に道路を走っている時にどのぐらいの有害物質を排出しているかの調査を米国の大学に依頼。その結果、光化学スモッグの原因物質である窒素酸化物（NO_x）などが基準の40倍も出ていることがわかったのです。

この事実を米国の環境保護局が9月に発表し、世界をアッと驚かせました。

車の排ガスを定期的にチェックしているNGOが存在していることに私はまず驚きましたが、基準逃れの手口がIT技術を駆使したソフトを利用したと知って、多くの人たちは悪質さにため息をついたのではないでしょうか。

利潤追求へ悪用「先端技術」

自動車の排ガス検査は、実際に道路を走る時の走行パターンをモデルにして、屋内の検査台で行います。ですから、実走行時との誤差が出ることがあり、今後は実走行時のデータでチェックすべきだという声も高まっています。

ところがVWの車には、検査と実走行を見分けるソフトが搭載されていて、検査時には規制内の汚染物しか出ないようにする「先端技術」が使われていたというのです。

次々と信じられない事実が明るみになってきましたが、このような偽装がなされた車は世界中に1100万台も走っており、ICCTが一年前にこの事実を指摘した時には、「検査の仕方がおかしいからだ」とVW側は耳をかさず、何の対応もとってこなかったのです。今回、不正が明るみになってもVWのトップは「一部の人間によるミス」と弁明しました。世界のだれもが信じないコメントです。

環境立国として、先進的な地球温暖化対策を進め、自然再生エネルギーの導入で世界にお手本を示し、環境問題の解決と経済発展を両立させた国として世界の先頭を走っていたのがドイツです。その国の産業を支え、日本のトヨタと一、二を争う世界的企業でなぜこのようなことが起きたのでしょうか。

フォルクス（国民）ワーゲン（車）はナチス時代にヒットラーが国民車の開発を呼び掛けたのが始まりで、今ではポルシェ、アウディーといった会社も傘下に収める名門企業です。国も出資しているので国家的企業とも言えます。

温暖化を中心とする地球環境問題の解決が遅々として進まないのは、環境対策は経済発展を阻害すると信じている国が大半だからです。その中で、ドイツは環境と経済を両立させている数少ない国です。VWはその名誉を捨て、利潤追求に走ってしまったようです。環境立国の羅針盤の一角が壊れてしまったと思わざるをえません。

一般財団法人 地球・人間環境フォーラム
環境問題に取り組む公益法人。地球環境問題の科学的調査研究を目的に1990年に設立。
国立環境研究所・地球環境研究センターの研究サポート、研究成果の普及・啓発などのほか、月刊機関誌「グローバルネット」を発行。